

令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号		緑メンテ 第 761-1 号	
路線 河川 名		赤川下北停車場線	
施工箇所		むつ市南町 地内	
位置図		縮尺	図示
図面番号		14 葉中 1	
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

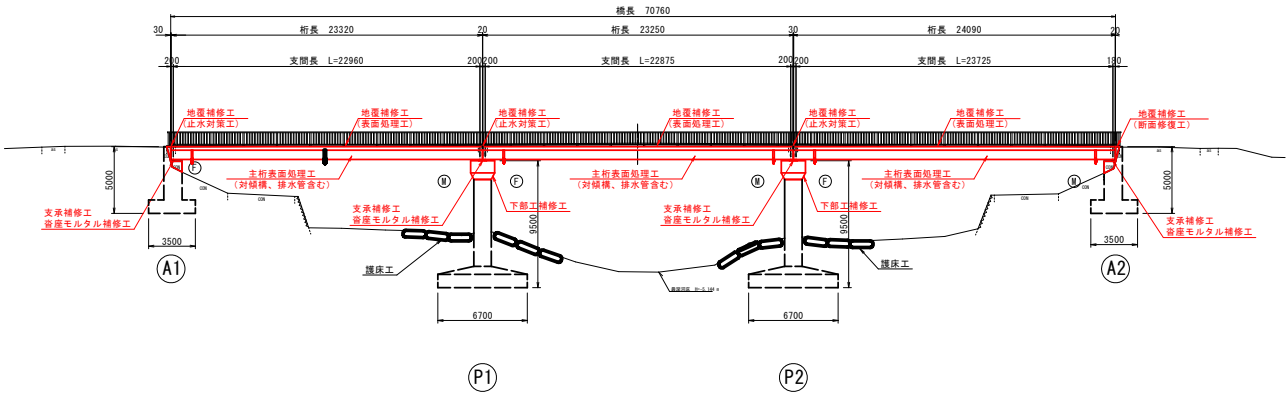
位置図



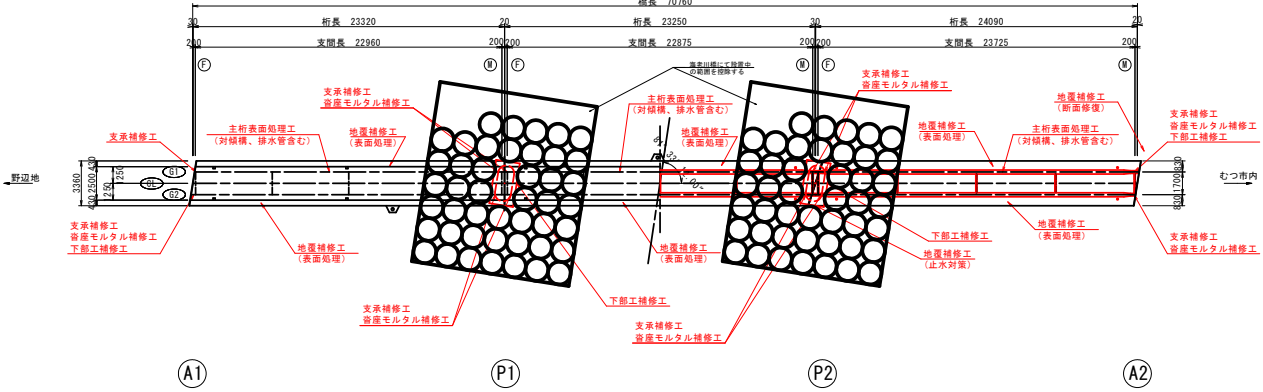
令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事		
工事番号	総メンテ 第 761-1 号	
路線名	赤川下北停車場線	
施工箇所	むつ市南町 地内	
補修一般図	縮尺	図示
図面番号	14	葉中 2
青森県下北県土整備事務所		
青 森 県		

海老川側道橋 補修一般図

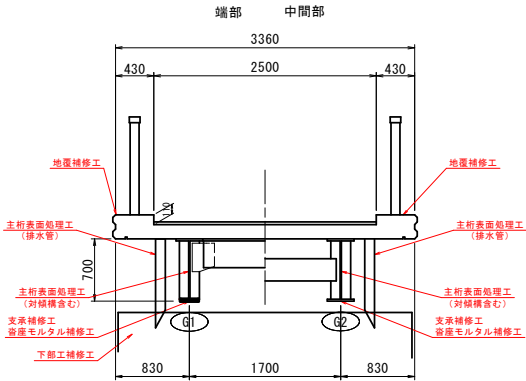
側面図
S=1:200



平面図
S=1:200



断面図
S=1:30



補修項目

補修項目	補修工法
防護柵補修工	断面修復工（地覆）、表面処理工（地覆）、止水対策工（地覆）
主桁表面処理工	素地調整 1種程度 再塗装工 R=1系 ※主桁、対候橋、排水管を含む
下部工補修工	断面修復工、表面処理工
管座モルタル補修工	打換え工
支承補修工	素地調整、再塗装工：主桁表面処理と同様
護床工	微型縦間め工 1.0tタイプ
雑工	床版防水フレキシブル管再設置

設計条件

橋梁区分	側道橋
橋長	70.760m
桁長	23.320 + 22.875 + 24.090m
支間長	22.960 + 22.875 + 23.725m
全幅員	3.360m
有効幅員	2.500 m
設計荷重	野集荷重
舗装	アスファルト舗装 t=30mm(指定)
床版	コンクリート床版 t=160mm(指定)
平面線形	R=∞
斜角	81°
上部工形式	単純鋼合成桁橋(3連)(側道橋)
下部工形式	A1, A2: 逆T式橋台、P1, P2: 壁式橋脚
基礎工形式	直接基礎
適用示方書	道路橋示方書(昭和55年)
築設年次	昭和62年8月

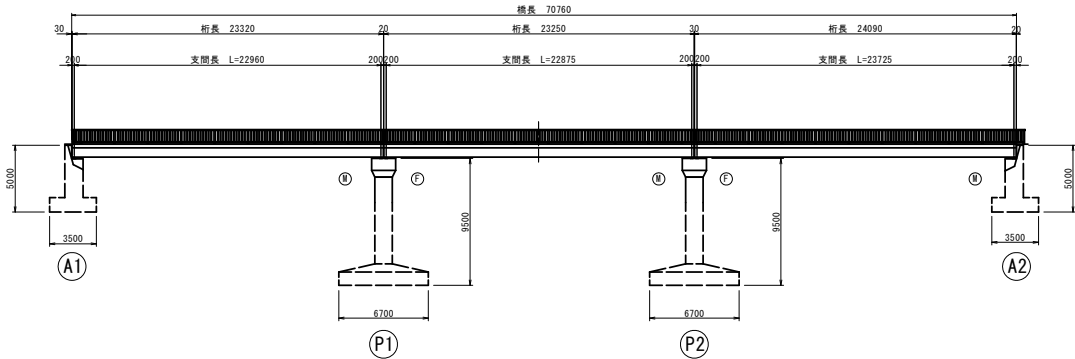
注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

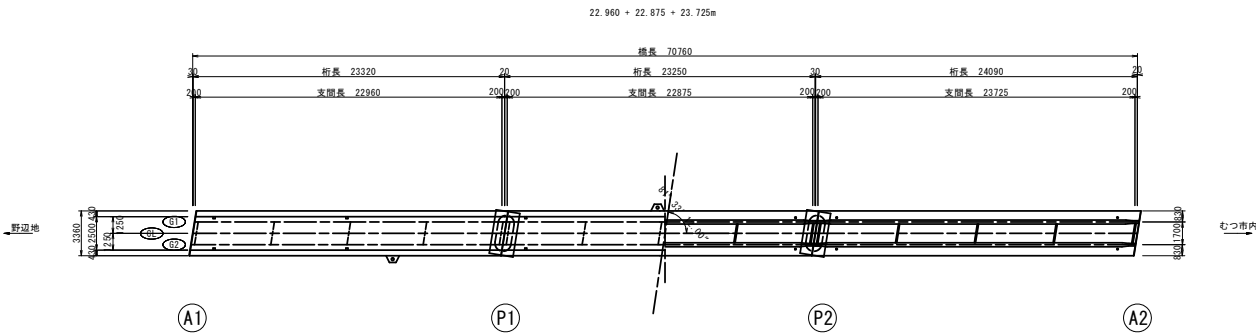
令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号		繰メンテ 第 761-1 号	
路線 河川 名		赤川下北停車場線	
施工箇所		むつ市南町 地内	
現況一般図		縮尺	図示
図面番号		14 葉中 3	
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

現況一般図

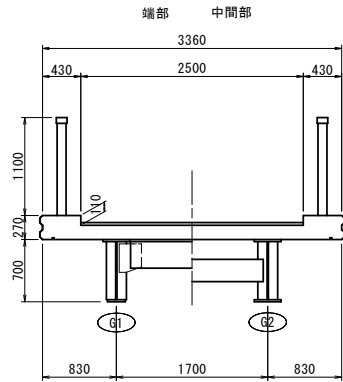
側 面 図



平 面 図



断 面 図



設計条件

橋梁区分	側道橋
橋 長	70.760m
桁 長	23.320 + 23.250 + 24.090m
支 間 長	22.960 + 22.875 + 23.725m
全 幅 員	3.360m
有効幅員	2.500 m
設計荷重	群集荷重
舗 装	アスファルト舗装 t= 30mm(推定)
床 版	コンクリート床版 t=160mm(推定)
平面線形	R=∞
斜 角	81°
上部工形式	単線鋼合成H桁橋(3連)(側道橋)
下部工形式	A1, A2: 逆T式橋台、P1, P2: 壁式橋脚
基礎工形式	直接基礎
適用示方書	道路橋示方書 (昭和55年)
架設年次	昭和62年8月

注記

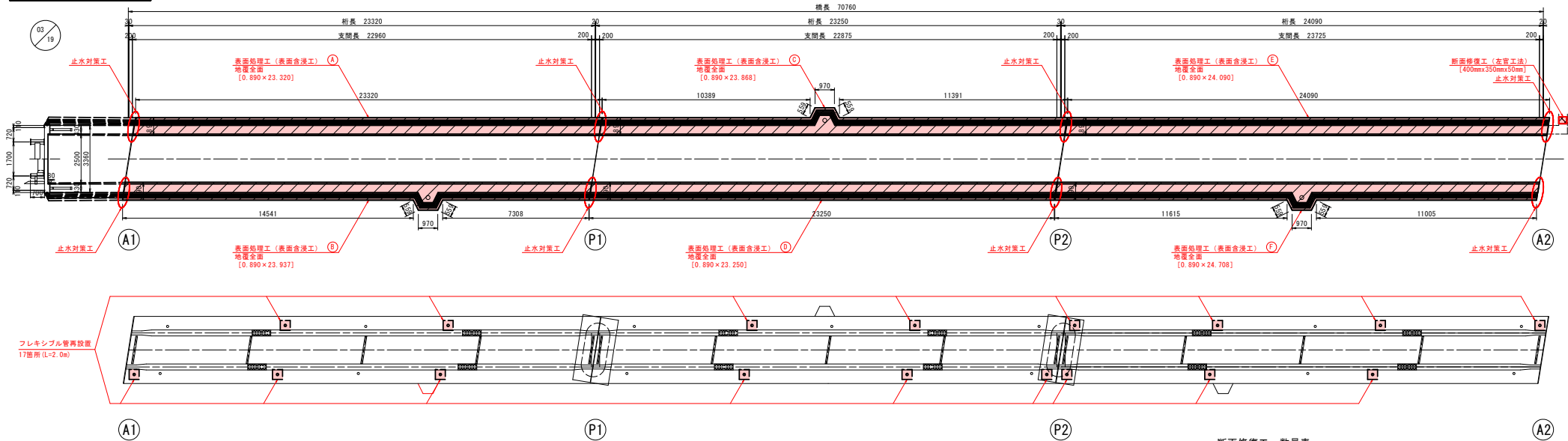
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

令和 5 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号	繰メンテ 第 761-1 号		
路線 河川 名	赤川下北停車場線		
施工箇所	むつ市南町 地内		
地覆補修工図	縮尺	図示	
図面番号	14 葉中 4		
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

海老川側道橋 地覆補修工図

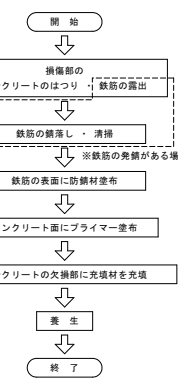
地覆補修工

平面図 S=1:100



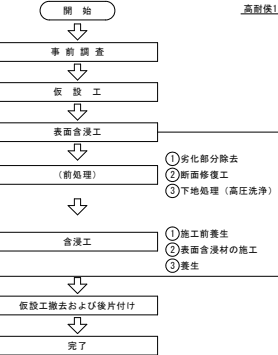
断面修復工〔左官工法〕

断面修復の施工フロー



表面含浸工

表面含浸工の施工フロー



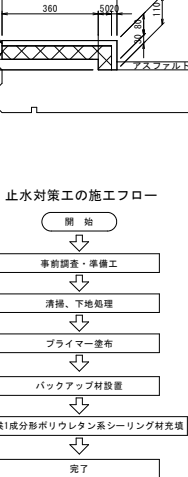
表面含浸材の施工仕様例

工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ねの工程間隔
下地処理および清掃	—	高圧洗浄、ブラッシング	—
1 けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水剤	0.10	スプレー※1 刷毛、ローラー塗り※2	1度塗りのため不要

※1 低圧でのスプレー散布は、大面積施工及び飛散してもよい周辺状況の場合
※2 刷毛及びローラーによる塗布は、小面積及びスプレー散布では周辺に飛散し影響がある場合

止水対策工

止水対策工の施工フロー



断面修復工 数量表

(ポリマーセメントモルタル)

工 法	箇所	寸 法	数 量
左官工法	地覆	① 0.400×0.350×0.05	= 0.007 m ³
		合計	= 0.01 m ³

表面含浸工 数量表

(けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水剤)

工 法	箇 所	寸 法	数 量
表面含浸工	地覆	① 0.890×23.320	= 20.75 m ²
		② 0.890×23.937	= 21.30 m ²
		③ 0.890×23.868	= 21.24 m ²
		④ 0.890×23.250	= 20.69 m ²
		⑤ 0.890×24.090	= 21.44 m ²
		⑥ 0.890×24.708	= 21.99 m ²
		合 計	

止水対策工 数量表

箇所	仕様・規格	寸 法	数 量
伸縮装置	バックアップ材	(0.090×0.360)×8箇所	= 3.60 m
	高耐圧1成分形ポリウレタン系シーリング材	(0.110×0.410)×8箇所	= 4.16 m

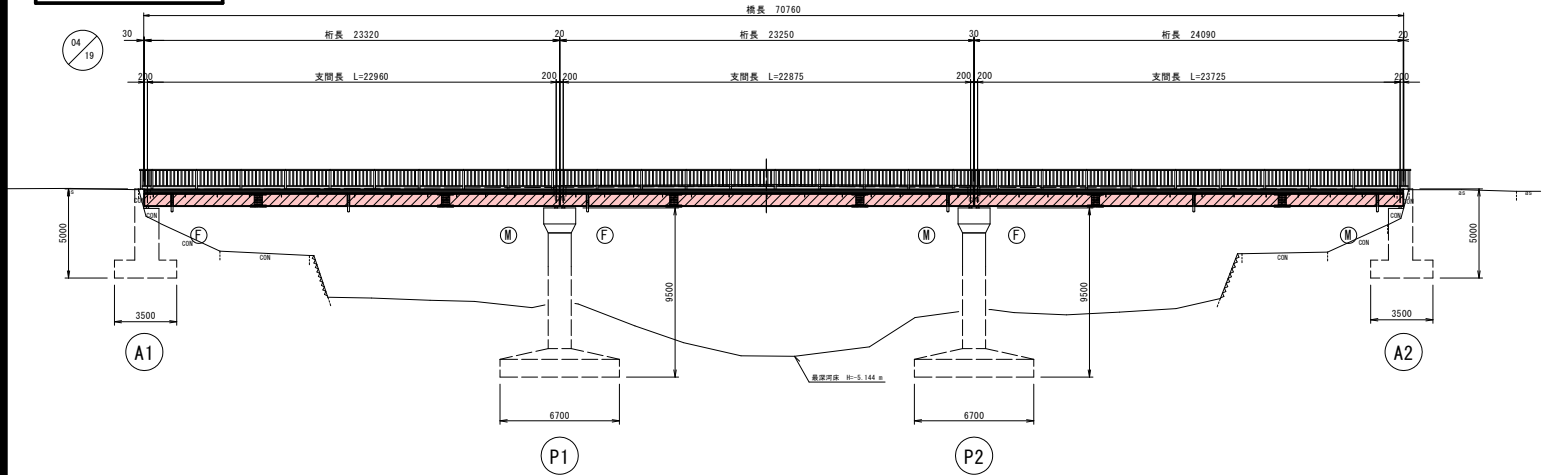
注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落とし、補修を行うこと。
はつりは最低50mm以上は行うこと。はつり後の断面にひび割れが確認される場合は、ひび割れを補修した後、断面修復を行うこと。
- 表面含浸工を適応する場合、無色透明であり実施可否がコンクリート表面で判断できない為、「補修履歴板」等で実施日を明示すること。
- 表面含浸材の標準使用量と塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。
- 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。

令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事		
工事番号	維メンテ 第 761-1 号	
路線名	赤川下北停車場線	
河川	海老川	
施工箇所	むつ市南町 地内	
主桁表面処理工図 (その1)	縮尺	図示
図面番号	14 葉中 5	
青森県下北県土整備事務所		
青 森 県		

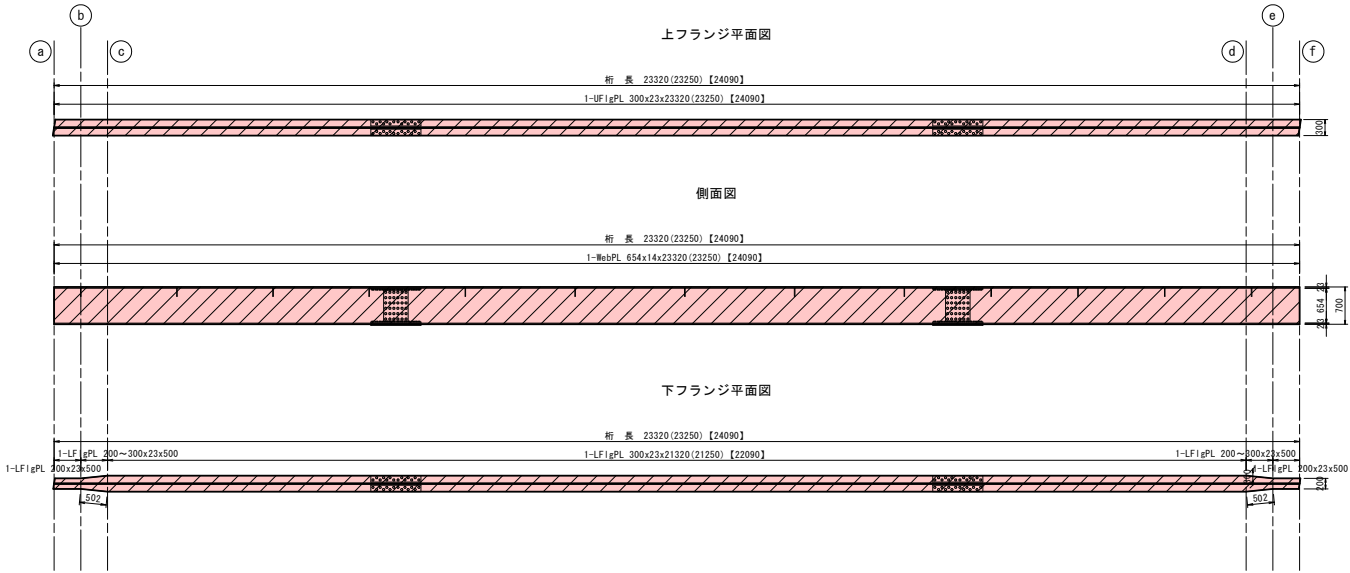
海老川側道橋 主桁表面処理工図（その1）

側 面 図 S=1:150

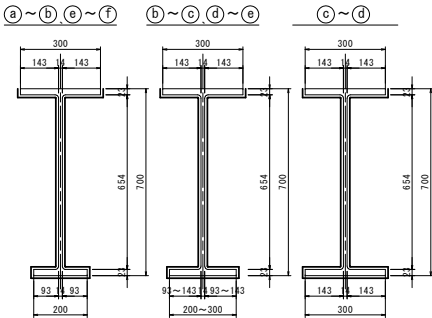


主桁詳細図 S=1:50

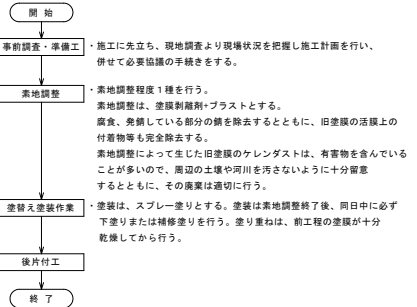
※ [] 内の数値は第2区間を、【】内の数値は第3区間を示す。



主桁断面図 S=1:10



施 工 手 順

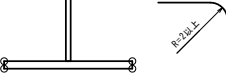


Rc-[] 塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m^2)	塗装間隔
現地調整	塗膜剥離剤・1種ケレン		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料中塗	240	1日～10日
上 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料上塗	170	1日～10日
		140	

※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

エッジ部曲面仕上げ



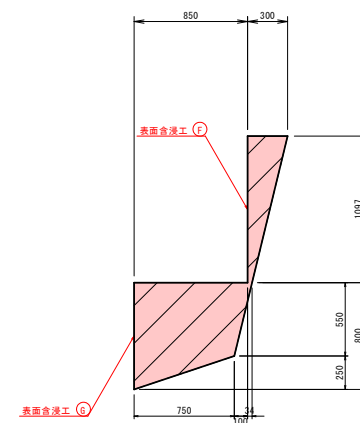
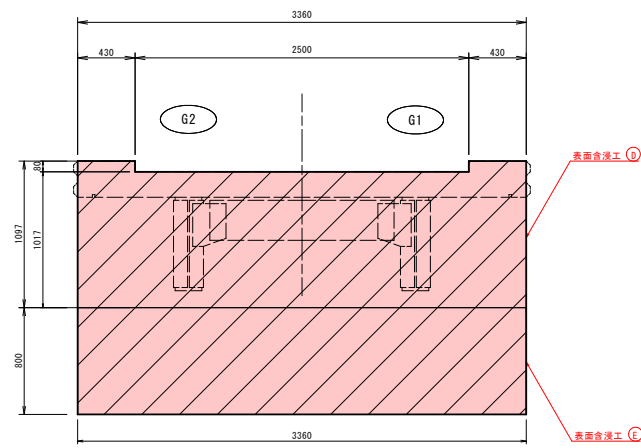
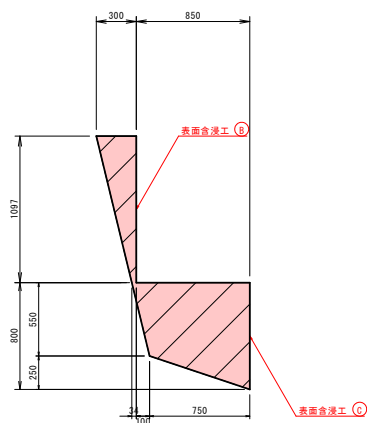
※ エッジ部は膜厚が確保されにくいことから、一般部と同等の塗膜性能を確保するため2R以上の面取りを行い、曲面仕上げとすること。
(上下フランジエッジ部: 6角を対象とする)

注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検査を行って確認すること。
- 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

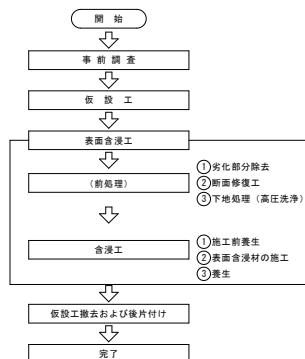
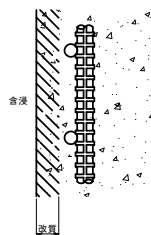
06/19

A1橋台



新田名部川

表面含浸工の施工フロー



工 程		標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ねの工程間隔
下地処理および清掃		—	高圧洗浄、ブラッシング	—
1	けい酸リチウム系シリラン複合型表面含浸撥水材	0.10	スプレー※1 刷毛、ローラー塗り※2	1度塗りのため不要

※1 低圧でのスプレー散布は、大面積施工及び飛散してもよい周辺状況の場合
 ※2 刷毛及びローラーによる塗布は、小面積及びスプレー散布では周辺に飛散し影響がある場合

(けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水材)

工 法		箇所	寸 法		数 量
表面塗装工	A1横台	(A)	$0.850 \times 3.360 - ((0.500 \times 380) \times 0.630 + 2 \times \text{箇所})$		= 2.202 m ²
		(B)	$(0.034 \times 0.300) \times 1.097 + 2$		= 0.183 m ²
		(C)	$0.550 \times 0.134 + 2 \times (0.550 \times 800) \times 0.750 + 2$		= 0.543 m ²
		(D)	$0.080 \times 0.420 \times 2 + 1 \times 0.7 \times 3.36$		= 3.486 m ²
		(E)	0.800×3.360		= 2.688 m ²
		(F)	$(0.034 \times 0.300) \times 1.097 + 2$		= 0.183 m ²
		(G)	$0.550 \times 0.134 + 2 \times (0.550 \times 800) \times 0.750 + 2$		= 0.543 m ²
合 計					= 9.9 m ²

 : 表面含浸工

注記

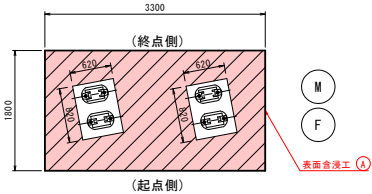
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当たり、寸法等は再確認現地測定を併せて実施すること。
3. 表面含浸工を適宜着色、集合色透明であり実施箇所がコンクリート表面で判断できないか、「補修履歴書」等に実施箇所を明示すること。
4. 表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって異なること。
5. 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。
6. 足場範囲外の補修箇所は、地上に施工すること。

令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号	維メンテ 第 761-1 号		
路線 河川 名	赤川下北停車場線		
施工箇所	むつ市南町 地内		
下部工補修工図 (その2)	縮尺	図示	
図面番号	14 葉中 8		
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

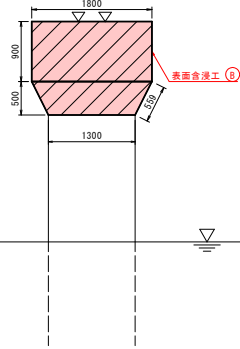
海老川側道橋 下部工補修工図 (その2) S=1:40

P1橋脚

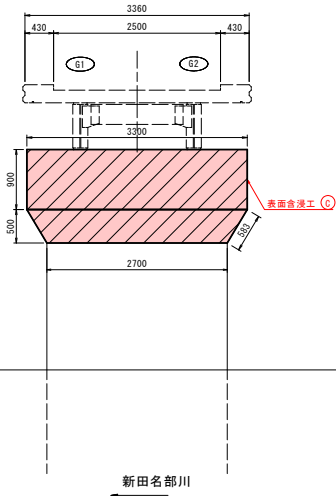
平面図(梁部上面)



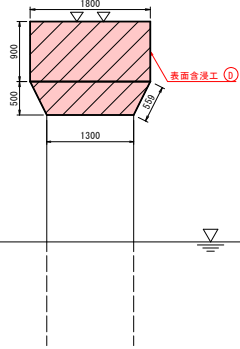
側面図(下流側)



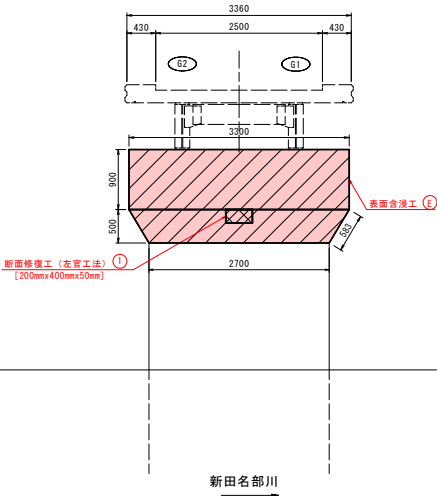
正面図(起点側)



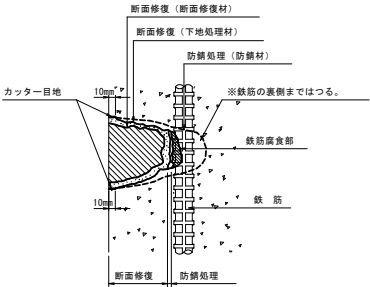
側面図(上流側)



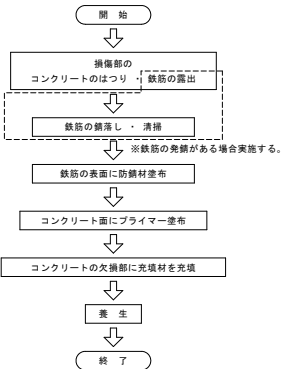
正面図(終点側)



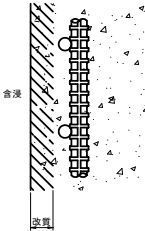
断面修復工〔左官工法〕



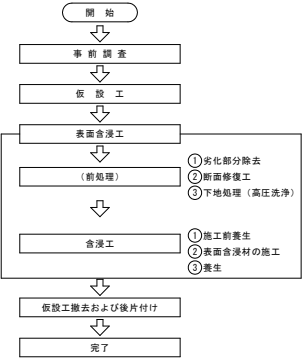
断面修復の施工フロー



表面含浸工



表面含浸工の施工フロー



表面含浸材の施工仕様例

工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ねの工程間隔
下地処理および清掃	—	高圧洗浄、ブラッシング	—
1 けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水材	0.10	スプレー※1 刷毛、ローラー塗り※2	1度塗りのため不要

※1 低圧でのスプレー散布は、大面積施工及び飛散してもよい周辺状況の場合
※2 刷毛及びローラーによる塗布は、小面積及びスプレー散布では飛散に飛散し影響がある場合

断面修復工 数量表

工 法	箇所	寸 法	数 量
左官工法	P1橋脚	① 0.200×0.400×0.050	= 0.004 m ³
合計			= 0.004 m ³

表面含浸工 数量表

工 法	箇所	寸 法	数 量
表面含浸工	P1橋脚	① 1.800×3.300-(0.820×0.620×2箇所)	= 4.923 m ²
		② 0.900×1.800+(1.300+1.800)×0.583÷2	= 2.524 m ²
		③ 0.900×3.300+(3.300+2.700)×0.559÷2	= 4.647 m ²
		④ 0.900×1.800+(1.300+1.800)×0.583÷2	= 2.524 m ²
		⑤ 0.900×3.300+(3.300+2.700)×0.559÷2	= 4.647 m ²
合計			= 19.3 m ²

表面含浸工

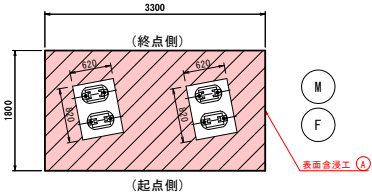
- 注記
- 本図面は、既存資料および現地調査をもとに作成した図面である。
 - 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
 - 事前調査として、施工前に必ず打音調査を全体的に行い、はつり面積を再度確認すること。
 - コンクリートの脆弱部は確実にはつり薄し、補修を行うこと。
はつりは最低50mm以上は行うこと。はつり後の断面にひび割れが確認される場合は、ひび割れを補修した後、断面修復を行うこと。
 - 表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。
 - 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。
 - 吊足場撤去後の補修箇所は、吊足場撤去後、地上にて施工すること。

令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号	繰メンテ 第 761-1 号		
路線 河川 名	赤川下北停車場線		
施工箇所	むつ市南町 地内		
下部工補修工図 (その3)	縮尺	図示	
図面番号	14 葉中 9		
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

海老川側道橋 下部工補修工図 (その3) S=1:40

P2橋脚

平面図(梁部上面)



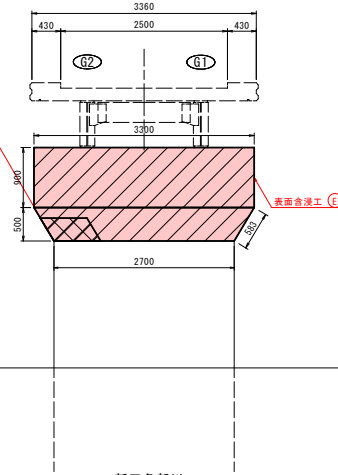
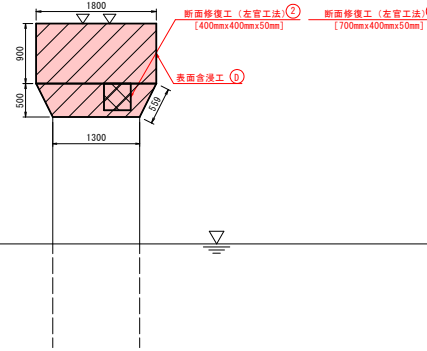
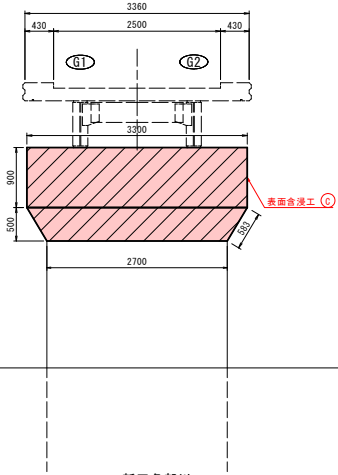
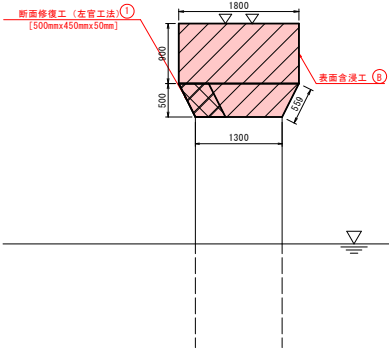
新田名部川

側面図(下流側)

正面図(起点側)

側面図(上流側)

正面図(終点側)

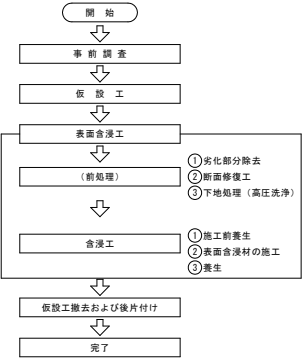


新田名部川

新田名部川

表面含浸工

表面含浸工の施工フロー



断面修復工 数量表

(ポリマーセメントモルタル)			
工 法	箇所	寸 法	数 量
左官工法	P2橋脚	① 0.500×0.450×0.050	= 0.011 m ³
		② 0.400×0.400×0.050	= 0.008 m ³
		③ 0.700×0.400×0.050	= 0.014 m ³
		合計	= 0.03 m ³

表面含浸工 数量表

(けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸浸水材)			
工 法	箇所	寸 法	数 量
表面含浸工	P2橋脚	① 1.800×3.300-(0.820×0.620×2箇所)	= 4.923 m ²
		② 0.900×1.800+(1.300+1.800)×0.583÷2	= 2.524 m ²
		③ 0.900×3.300+(3.300+2.700)×0.559÷2	= 4.647 m ²
		④ 0.900×1.800+(1.300+1.800)×0.583÷2	= 2.524 m ²
		⑤ 0.900×3.300+(3.300+2.700)×0.559÷2	= 4.647 m ²
		合計	= 19.3 m ²

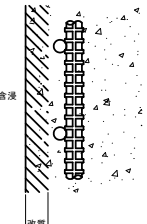
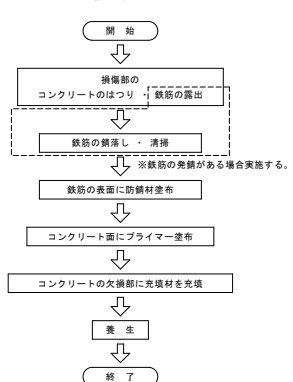
表面含浸工

注記

- 本図面は、既存資料および現地調査をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 事前調査として、施工前に必ず打音調査を全体的に行い、はつり面積を再度確認すること。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり薄し、補修を行うこと。
はつりは最低50mm以上は行うこと。はつり後の断面にひび割れが確認される場合は、ひび割れを補修した後、断面修復を行うこと。
- 表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。
- 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。
- 吊足場範囲外の補修箇所は、吊足場撤去後、地上にて施工すること。

断面修復工〔左官工法〕

断面修復の施工フロー



表面含浸材の施工仕様例

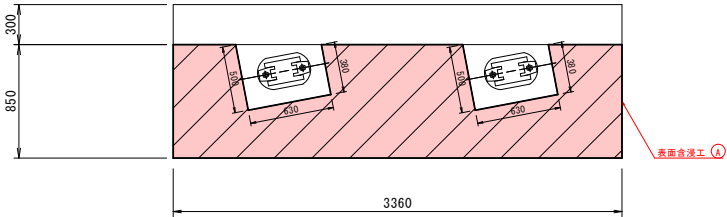
工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ねの工程間隔
下地処理および清掃	—	高圧洗浄、ブラッシング	—
1 けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸浸水材	0.10	スプレー※1 刷毛、ローラー塗り※2	1度塗りのため不要

※1 低圧でのスプレー散布は、大面積施工及び飛散してもよい周辺状況の場合
※2 刷毛及びローラーによる塗布は、小面積及びスプレー散布では飛散に飛散し影響がある場合

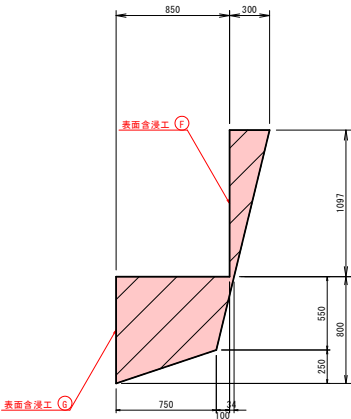
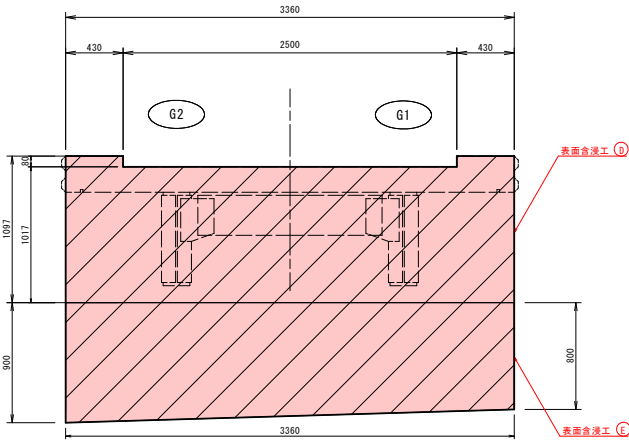
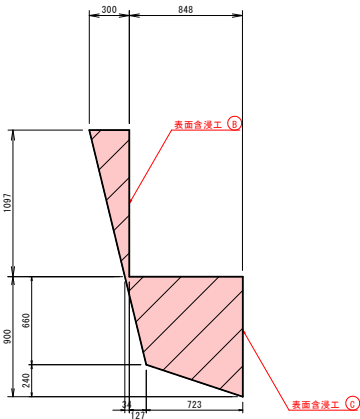
令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号	総メンテ 第 761-1 号		
路線 河川	赤川下北停車場線		
施工箇所	むつ市南町 地内		
下部工補修工図 (その 4)	縮尺	図示	
図面番号	14 葉中 10		
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

海老川側道橋 下部工補修工図（その 4） S=1:20

A2橋台



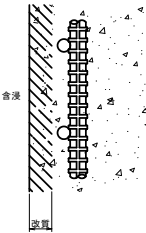
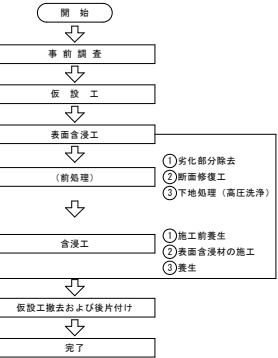
M



新田名部川

表面含浸工

表面含浸工の施工フロー



表面含浸材の施工仕様例

工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	差重ねの工程間隔
下地処理および清掃	—	高圧洗浄、ブラッシング	—
1 けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸浸水材	0.10	スプレー※1 剛毛、ローラー塗り※2	1度塗りのため不要

※1 低圧でのスプレー散布は、大面積施工及び飛散してもよい周辺状況の場合
※2 剛毛及びローラーによる塗布は、小面積及びスプレー散布では周辺に飛散し影響がある場合

表面含浸工 数量表

(けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸浸水材)

工 法	箇所	寸 法	数 量
表面含浸工	A2橋台	① $0.850 \times 3.360 - ((0.500 + 0.380) \times 0.630 \div 2 \times 2 \text{箇所})$	$= 2.302 \text{ m}^2$
		② $(0.034 + 0.300) \times 1.097 \div 2$	$= 0.183 \text{ m}^2$
		③ $0.660 \times 0.161 \div 2 + (0.660 + 0.900) \times 0.723 \div 2$	$= 0.617 \text{ m}^2$
		④ $0.080 \times 0.430 \times 2 + 1.017 \times 3.360$	$= 3.486 \text{ m}^2$
		⑤ $(0.800 + 0.900) \times 3.360 \div 2$	$= 2.856 \text{ m}^2$
		⑥ $(0.034 + 0.300) \times 1.097 \div 2$	$= 0.183 \text{ m}^2$
		⑦ $0.550 \times 0.134 \div 2 + (0.550 + 0.800) \times 0.750 \div 2$	$= 0.543 \text{ m}^2$
		合 計	

表面含浸工

注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 表面含浸工を適応する場合、鮮色透明であり実施可否がコンクリート表面で判断できない為、「補修履歴表」等で実施日を明示すること。
- 表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。
- 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。
- 吊足場範囲外の補修箇所は、地上にて施工すること。

令和 5 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号	維メンテ 第 761-1 号		
路線 河川 名	赤川下北停車場線		
施工箇所	むつ市南町 地内		
省産モルタル 補修工図 (その 1)	縮尺	図示	
図面番号	14 葉中 11		
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

海老川側道橋 沓座モルタル補修工図(その1)

撤去図

橋台

復旧図

A-A断面 S=1:5

B-B断面 S=1:5

E-E断面 S=1:5

F-F断面 S=1:5

C-C断面 S=1:5

D-D断面 S=1:5

G-G断面 S=1:5

H-H断面 S=1:5

平面図 S=1:5

平面図 S=1:5

位置図 S=1:200

凡例: 〇 施工箇所 7箇所

鉄筋表

(SD345)

記号	径	長さ	本数	単位重量	1本当り重量	重量	形状	備考
S1	D13	50	4	0.995	0.050	0.2		
S2	D13	430	1	0.995	0.428	0.4		
S3	D13	550	1	0.995	0.547	0.5		
S4	D13	325	1	0.995	0.323	0.3		
S5	D13	565	1	0.995	0.562	0.6		
沓座モルタル 1基あたり							2 kg/基	
A1橋台 合計(補修1基)							2 kg	
A2橋台 合計(補修2基)							4 kg	

注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 沓座モルタル打替工は、橋面を車両通行止めとした上で、施工すること。
4. 沓座モルタル打替工は、施工時に改めて現地確認を行い、可能な限りコンクリートの脆弱部をつ取り、モルタル打替えを行うこと。
5. 特記なき材質はSS400を示す。
6. 沓座モルタル打替後、下部工表面処理工と合わせて沓座モルタルに対しても表面含浸工を実施すること。

令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事			
工事番号	繰メンテ 第 761-1 号		
路線 河川 名	赤川下北停車場線		
施工箇所	むつ市南町 地内		
寄座モルタル 補修工図 (その2)	縮尺	図示	
図面番号	14 葉中 12		
青森県下北県土整備事務所			
青 森 県			

海老川側道橋 沓座モルタル補修工図 (その2)

撤去図

橋脚

復旧図

A-A断面 S=1:5

B-B断面 S=1:5

E-E断面 S=1:5

F-F断面 S=1:5

C-C断面 S=1:5

D-D断面 S=1:5

G-G断面 S=1:5

H-H断面 S=1:5

平面図 S=1:10

平面図 S=1:5

位置図 S=1:200

鉄筋表

(SD345)

記号	径	長さ	本数	単位重量	1本当り重量	重量	形状	備考
S1	D13	50	4	0.995	0.050	0.2		
S2	D13	350	2	0.995	0.348	0.7		
S3	D13	550	2	0.995	0.547	1.1		
沓座モルタル 1基あたり						2 kg/基		
P1橋脚 合計 (補修4基)				D13		8 kg		
P2橋脚 合計 (補修4基)				D13		8 kg		

- 注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
 2. 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
 3. 沓座モルタル打替工は、橋面を車両通行止めとした上で、施工すること。
 4. 沓座モルタル打替工は、施工時に改めて現地確認を行い、可能な限りコンクリートの脆弱部をつ取り、モルタル打替えを行うこと。
 5. 特記なき材質はSS400を示す。
 6. 沓座モルタル打替後、下部工表面処理工と合わせて沓座モルタルに対しても表面含浸工を実施すること。

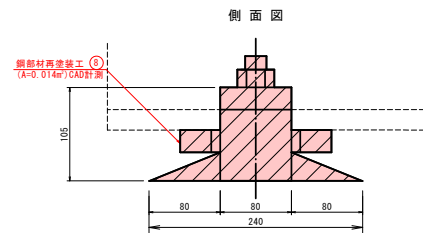
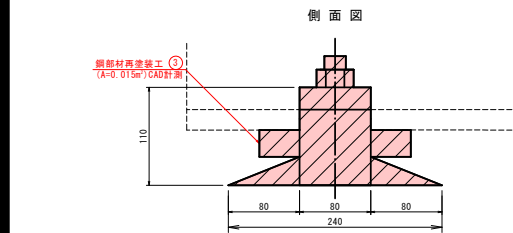
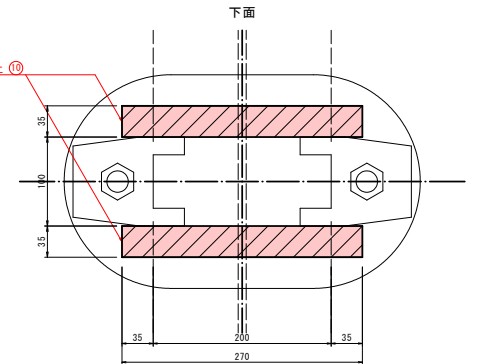
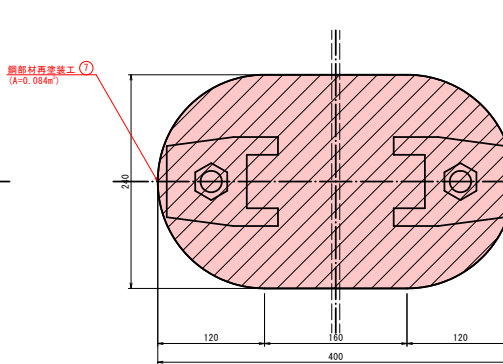
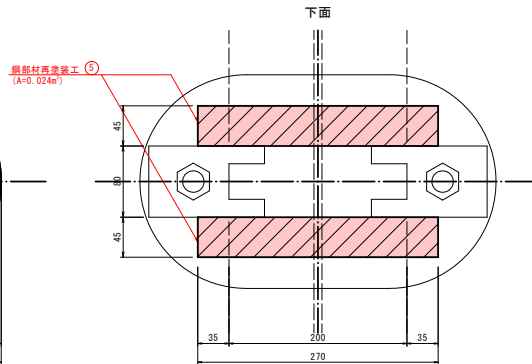
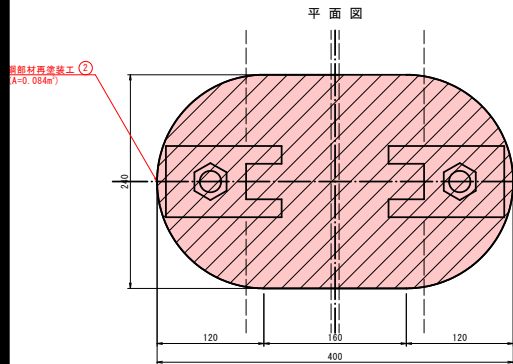
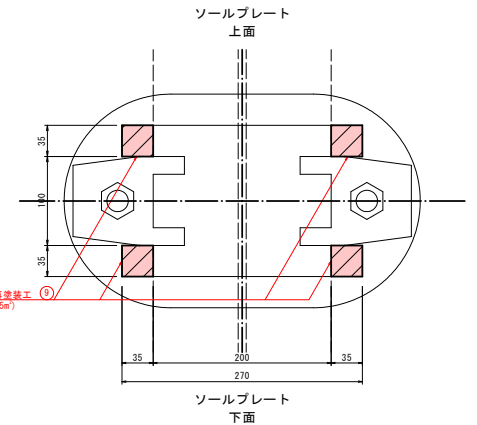
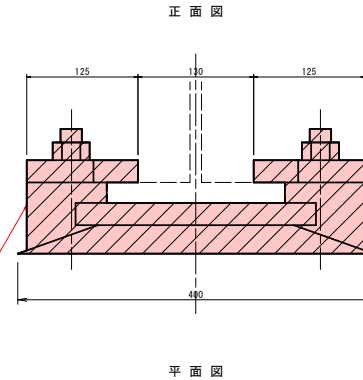
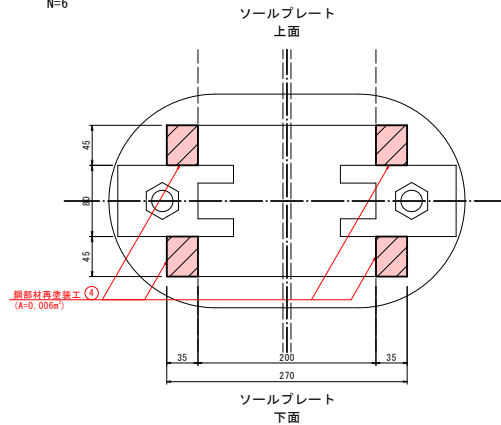
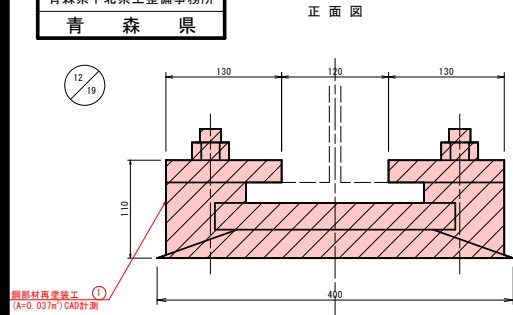
工事番号	
路線名	赤川下北停車場線
施工箇所	むつ市南町 地内
支保補修工図	縮尺 図示
図面番号	14 案中 13
青森県下北県土整備事務所	
青森県	

海老川側道橋 支保補修工図

鋼部材再塗装工

固定支保 S=1:3
(A1橋台、P1橋脚(A2側)、P2橋脚(A2側))
N=6

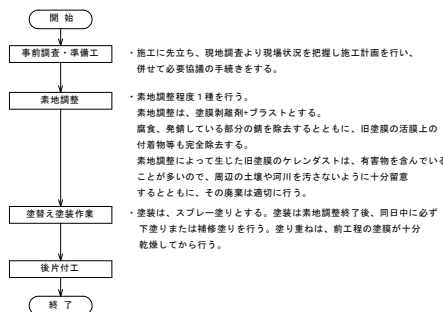
可動支保 S=1:3
(P1橋脚(A1側)、P2橋脚(A1側)、A2橋台)
N=6



数量表

工 法	箇 所	数量
鋼部材再塗装工	固定	6
	可動	6

施工手順



Ro-1塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m²)	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤、1種ケレン		4時間以内
防食下地	有機ジクロリッペン	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除せいでISO 5a 2 1/2とする。

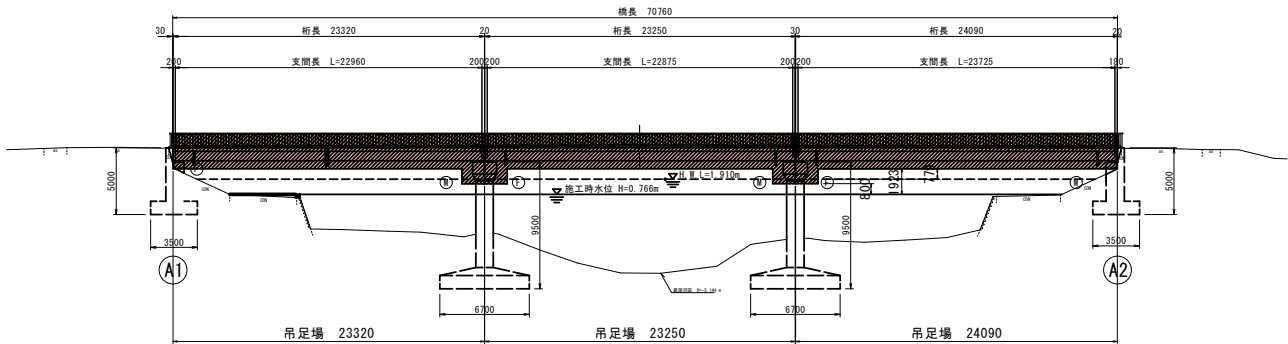
注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

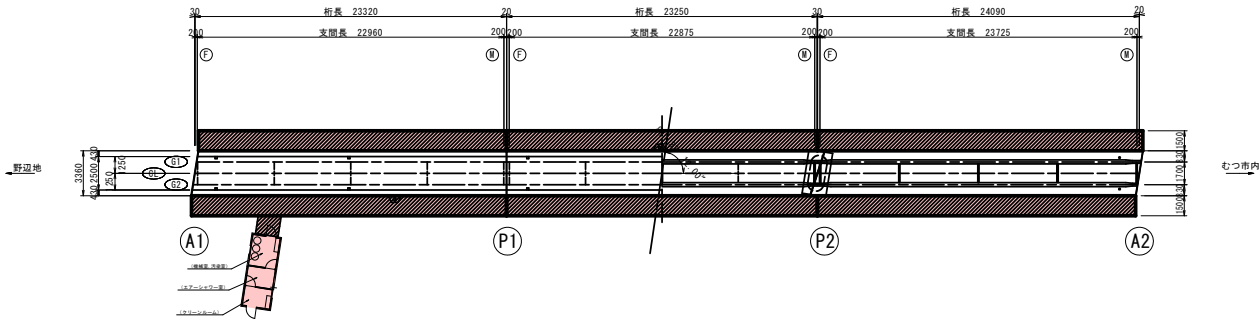
令和 8 年度 橋梁補修(海老川側道橋) 工事	
工事番号	緑メンテ 第 761-1 号
路線 河川 名	赤川下北停車場線
施工箇所	むつ市南町 地内
施工計画図その1 (参考)	縮尺 図示
図面番号	14 葉中 14
青森県下北県土整備事務所	
青 森 県	

海老川側道橋 施工計画図その1 (参考)

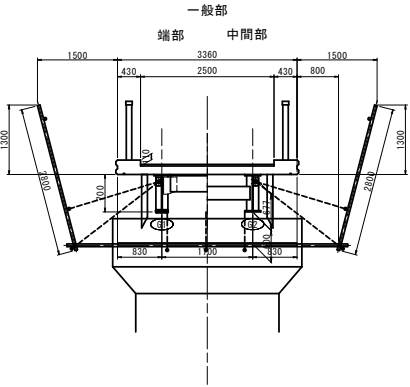
側 面 図
S=1:200



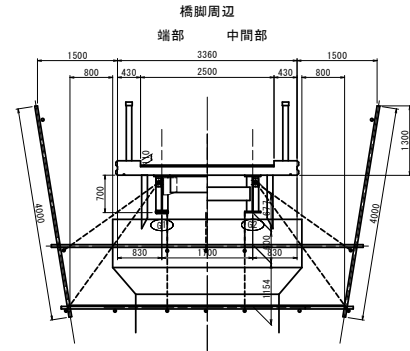
平 面 図
S=1:200



断 面 図
S=1:50



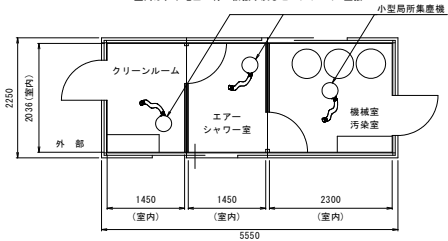
断 面 図
S=1:50



塗装材処理棟詳細図 S=1:50

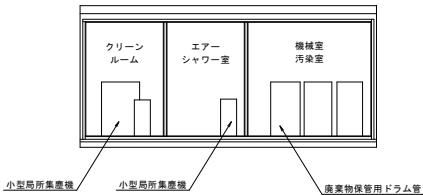
平 面 図

ハウス 4 坪タイプ (寸法は参考)
室内は、下地口45材 板張り及びビニルシート2重張



断 面 図

室内は、下地口45材 板張り及びビニルシート2重張



- 注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
 2. 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
 3. 工事にあたり、仮設方法(本業務では張り足場)などについて、現地の状況を確認後、適する工法を選定し、関係諸機関と協議を行ってから作業すること。
 4. クリーンルームの設置位置は、現地状況を確認した上で検討すること。